

2026 年度 北海道 U15 部会クラブチームに係る体制管理（ガバナンス）等について

（一財）北海道バスケットボール協会

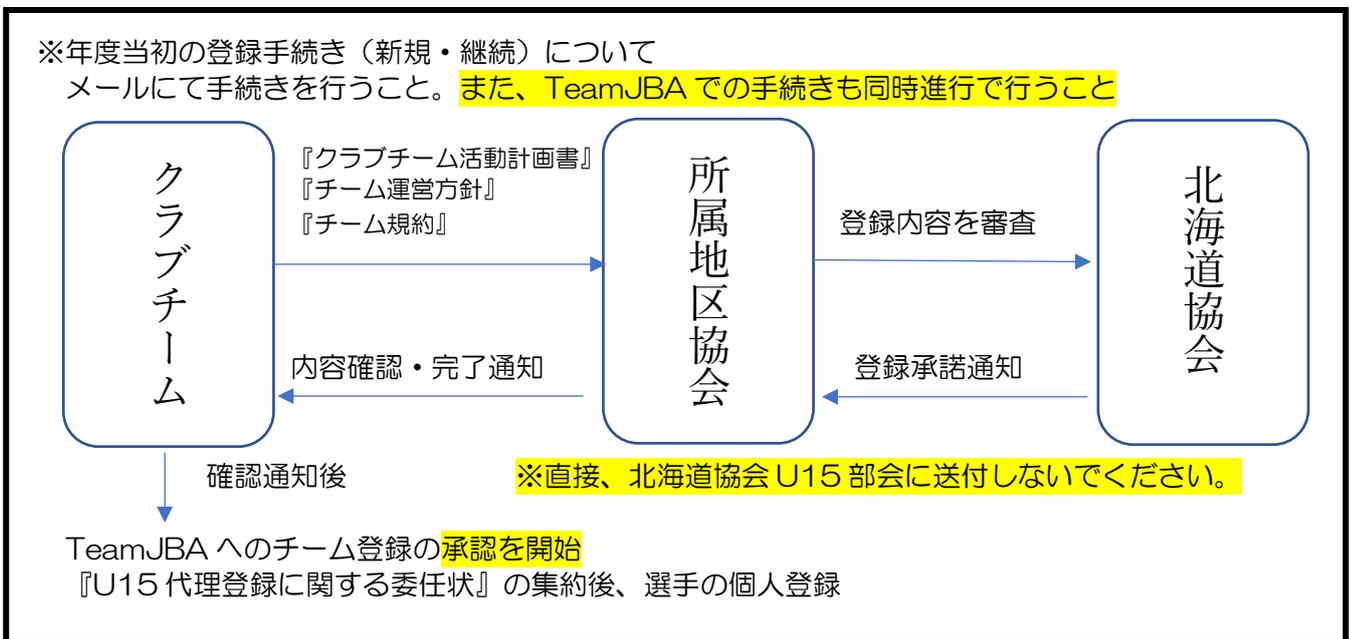
昨今の少子化や教員の働き方改革、競技環境の変化によって、部活動単位チームだけでなく、クラブチームの活動が道内でも増えてきている状況です。

（一財）北海道バスケットボール協会としては、U15 の活動が、中学校チーム、クラブチーム、B コースチームが協力しながら、今後の活動についての共通理解を深めるとともに、選手が健やかに成長していく環境をつくるための体制管理についてまとめました。これをもとに、今後増えてくることが予想されるクラブチームが参加できる活動の場を増やしていければと考えています。1 チームでも多くのチーム、1 人でも多くの選手、スタッフが北海道バスケットボールファミリーとして共に良い環境で活動していけることを願っております。ご理解ご協力、よろしくお願いいたします。

1. 体制管理（ガバナンス）の確立について

チーム新規設立および継続登録について

- U15 という世代に合わせた育成を目的とすること。
- 年間を通して、チームとしての活動が継続して行われること。
- 他のクラブチーム、および中学校チーム・B コースチームと友好的な関係を築いたチーム経営及び活動を行うこと。
- 協会や大会運営組織に対して、趣旨を理解し、全面的な協力体制を取ること。
- 年度当初の登録手続き（新規・継続）について別紙 1 『チーム運営方針およびチーム規約（例）』を参考に各チームで作成する『チーム運営方針』『チーム規約』と、別紙 2 『クラブチーム活動計画書』を合わせてチーム必要書類とし、所属する各地区協会に提出をすること。
- 申請承認後、申請したクラブチームには内容確認の完了を通知する。その後に、TeamJBA に登録手続きを行う。



① JBA 登録について

<チーム加盟>

- 全チーム必要であり、TeamJBA で5月末までに加盟手続きを行う。
※年度途中の加盟手続きも可能だが、大会出場要件（移籍ルールを含む）により参加できない場合がある。
- チームの活動拠点を所属地区とする。

<選手登録>

- 「U15 代理登録に関する委任状」を利用して保護者から同意を得た上で、チーム責任者で登録手

続きを行う。

- 大会等へ参加する場合は、各チームでの登録が必要となる。ただし、練習等のみの活動を行う選手はその限りではない。
※大会等への出場要件については、それぞれの大会実施要項を参照する。
- 選手の移籍があった場合は、「移籍申請書」を記入し、道協会事務局に提出する。「移籍申請書については、できるだけチームでまとめて提出すること。なお、移籍回数は、年度内に1回までとする。
【流れ】 1,移籍先チーム → 2,移籍元チーム → 3,移籍先チーム → 4,道協会事務局
【提出先】 北海道バスケットボール協会 U15 部会 和田 圭吾 宛
〒062-0041 札幌市豊平区福住1条3丁目16-1 札幌市立羊丘中学校
- 地区協会をまたぐ登録・移籍については、原則認めない。

② チームスタッフにおける所有ライセンス（コーチ・審判）について

- 両ライセンスともに、D級以上とし、可能な限りC級以上が望ましい。
ただし、新規に登録するチームに関しては、初年度はE級以上も可とし、次年度以降はD級以上とする。
※大会等への参加の有無に関わらず必須とする。
※E級はeラーニングで取得可能となっていますので、ライセンス所有者が居ないチームは、登録時期（5月末）までに取得すること。また、D級以上は、各講習会への参加が必要となるため、計画的な取得を進めること。

③ チームスタッフ（コーチ・帯同審判員）数について

- 各チームのコーチスタッフは2名以上とする。また、所有ライセンスについては、最低1名以上とするが、可能な限り全スタッフが所有することが望ましい。
- チームに帯同するライセンスを所有する審判員については、大会等には確実に1名以上の帯同ができることとし、チームには2人以上居ることが望ましい。
- コーチと審判を兼務することは構わないが、コーチスタッフ2名と審判1名の3人以上は配置する。

確認事項

帯同審判の報告が遅れたり、急遽帯同させられないという状況が頻発している。このような問題が怒らないように、各チームでしっかりと対応してほしい。（大会運営が滞り、他のチームにまで負担がかかるため）

④ 育成マインドへの共通理解

- ウェルフェア（インテグリティ等）の精神
⇒ JBA「クリーンバスケット、クリーン・ザ・ゲーム ～暴力暴言根絶～」
※試合中だけでなく、普段の活動中も徹底。
- マンツーマン推進への共通理解。
- 選手の育成（強化）については、高い目標をもち、それぞれ努めていただきたいが、対象選手が、U12～U15であることを踏まえ、強化のみに偏らないことへの配慮（試合出場機会、補欠文化の解消など）も忘れない。
※「燃え尽き症候群（バーンアウト）」への配慮も含む。
- 選手へのモラル・マナーに関する指導を十分に行うこと。メンタルコーチの設置を努力目標とする。
- チームスタッフ（指導者）の発言・行動・身だしなみ等に留意すること。
⇒ 選手は、育成世代（思春期）であり、様々なことに興味・関心があり、些細なことにも影響を受けることを考慮すること。

⑤ 大会等への出場要件の設置について

- 継続的な活動・安定的な大会運営協力が期待できない、もしくは健全なチーム運営ができていない、と判断したクラブチームについては、道内の大会等への参加自粛、同じく、新規に加盟・登録するチームに関しても、地区協会事務局と協議の上、参加の自粛および可否を決定・通知する場合がある。
活動期間
 - ・前年度からの継続的な活動実績がある。
 - ・年間を通じて活動実績がある。※継続的な活動（クラブ運営）を行うことができる。

- 活動回数 ・ 少なくとも週1回以上の活動日がある。
 ※ただし平均週2回以上の休息日を設ける。
- その他 ・ 1日3時間以内とする。ただし、大会等の場合はこの限りでない。
 ・ 中学校チーム、Bコースチームとの連携が図れる。
 ・ 育成マインドを鑑みた配慮ができる。
 ・ 大会によっては、選手はユニフォームを着用、帯同審判はレフリーカッターを着用する。

2. 連携体制の確立について

① クラブ・ユースチーム責任者会議の実施

※原則、対面形式による開催とするが、オンライン(ZOOM等)の場合もあり得る。

- 北海道バスケットボール協会U15部会が主催者となり、実施する。
「必要に応じ、各地区でも開催」
- 年1回以上クラブ・ユースチーム責任者会議を行い、クラブ・ユース区分内の共通理解を図る。各チームの責任者は必ず参加する。
※責任者が参加できない場合は、他のチームスタッフの代理出席を認める。

② クラブ・ユースチームが参加する大会等の企画・運営

- U15クラブ選手権およびU14クラブ新人大会の事務局（企画・運営）
- U15選手権（ジュニアウインターカップ予選）の事務局（企画・運営）
- その他、地区協会が主催する大会の運営

③ 育成センター(DC)活動への協力

- DCの活動がある日は、優先的に選手をDC活動に参加させること。
- 育成世代に必要な指導内容を学ぶ機会として位置づけ、コーチスタッフはDC活動に積極的に参加すること。

④ 情報共有の方法

- TeamJBAに登録のメールアドレスを通じて連絡するため、定期的な確認を行う。
- 北海道バスケットボール協会のホームページを定期的に確認する。
★大会の案内等は、道協会ホームページで案内する。

3. その他

- ① 体制管理（ガバナンス）については、競技環境の変化等によって追加・変更されることもある。

※2026年度における、クラブチームが参加できる大会について

共通理解したいこと①

～大会出場について～

道協会主催大会

1. **U15クラブ選手権大会**
2. **Jr.ウインター予選兼U15選手権**
3. **U14クラブ新人大会**

※9月末日までにU14が5名以上所属するクラブチームが8チーム以上いる場合に開催決定。

共通理解したいこと②

～選手の移籍について～

- 移籍は自由に行えるが、大会参加はできない。
※中学校チームに所属する3年生が、中体連後にクラブチームで活動するために移籍した場合は、Jr.ウインターカップ予選に出場することができる。
- 移籍の際、移籍元および移籍先両方の同意が必要

3月10日開催 クラブチーム責任者説明会 資料より